

全国知事会議についての記者会見概要

【日 時】 平成21年5月18日（月） 17:12～17:30

【場 所】 都道府県会館6階 知事室

【出席者】 麻生全国知事会会長

山田地方分権推進特別委員会委員長（京都府知事）

中川全国知事会事務総長

（事務局）

ただいまから、全国知事会議についての麻生会長の記者会見を始めさせていただきます。それでは、麻生会長お願いいたします。

（麻生全国知事会会長）

先ほど、全国知事会議が終わりましたが、今日は全国知事会の在り方について、橋下知事、東国原知事を始め、相当本質的かつ活発な議論がなされました。

それぞれ、ああいう意見を取り入れながら、我々はさらに影響力のある知事会あるいは、実際に分権が進むような活動に結びつけていくということになるわけですが、それは、今日議論がありましたように、まず、今一番大事なのはなんといいましても（衆議院総選挙における各政党）マニフェストへの対応です。これに、我々の主張を入れるということ。これは今、一所懸命に相当各党と議論しながらやっている最中です。その成果を見ながら、最終的には、マニフェストを評価をするということになります。評価はもちろん、外部的にも公表しますし、内部的には、各知事にはこのような結果である、理由はこうであるということをやります。

難しいのはその結果に基づいて、知事会として支持政党を決めてしまえと。これは、なかなかそう簡単な話しではない。橋下知事あるいは東国原知事は決められるとしても、それは、そう簡単な話しではない。その気持ちはよくわかりますから、どのような形で運動していくかよく考えていきたいと思っています。

その他に、今日はインフルエンザ対策の話がありましたが、全国で新しい段階に入り、非常に各県知事も緊張している中での会議になりましたが、舛添厚生労働大臣もわざわざおいでになり、意見交換会できたことは非常に有意義だったと思います。とりあえず、以上です。

（質疑応答）

（記者）

今日の緊急アピールですが、修文されるようですがいつになりますか。

(麻生全国知事会会長)

今日中に、皆さんにお渡しします。今、修文作業をやっていますから。そう大きな修文はありません。

(記者)

今日の全国知事会議で採択されたということですか。

(麻生全国知事会会長)

そうです。

(記者)

緊急アピールは政府に出されますか。

(麻生全国知事会会長)

出します。

(記者)

何か手続きとしては？

(麻生全国知事会会長)

これは、持ってまいります。今、誰がどういう分担で持っていこうかということは、ちよつと各委員長と協議中です。

(記者)

冒頭、麻生会長おっしゃいました、橋下知事、東国原知事の参入は、非常に活発な会議でした。それは、麻生会長の三期目が始まるわけですが、麻生会長の全国知事会の運営に何か影響があるのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

あります。私は大歓迎しています。やっぱり、あのように知事会はこれではいかんのではないか、もっと活動強化しようではないかというような議論が出るというのは非常にいいことだと思います。

やっぱり知事会の戦力は、各知事が動かなければいけない。それが、現実的には、我々委員会方式を中心にやっており、委員長が中心に動くということでやっていますが。ああやって、もっと立体的といいましようか。力強い運動をしようじゃないかというのは、非常に結構だと思います。

(記者)

今の話と関連ですが、第1に4年間で今日のように政党支持を鮮明にすべきだというのが議論になったことは、知事会であるのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

それは、常にあった議論です。今までに選挙の度ごとに、この際評価を基に知事会としては、どの政党が望ましいとか支持すべきではないかという議論は、何回も起こりました。しかし、本当にやっていいのかということになったら、やはりそこまでやるべきではない。また、理由はいろいろありますが、政党支持ということになると分権だけの観点でいいのかどうかというのは非常に大きな問題があり、知事会の政党支持になると、それなりにいろんな意味で重要なことです。

そういう議論は出ましたが、評価を公表するというのでやってきました。

(記者)

今日は流れを見てみると、声が大きい人が言っているだけかも知れませんが、今、多数決の方向に知事会もなっていくようなことになるのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

どうでしょうか。多数決の方向をとるということでもないのではないのでしょうか。これは、多数決と簡単に言いますが、多数決をいろんな格好でやりますが、知事会は割れてしまいます。やっぱりこれは、割れないように議論を尽くしていくということが非常に大事だと思います。多数決で反対が三分の一と切って捨てるというわけには、なかなかいかないと思います。今日もいろんな意見が出ましたが、ああいう議論をしながら、ちゃんと方法をしっかり出していくことだと思います。

(記者)

確認ですが、先ほど緊急アピールを採択されましたが、直轄事業負担金制度に対して、きちっとしたものをもらえないと払わないという意味の話もありましたが、そこまで踏み込んだものではないですか。

(麻生全国知事会会長)

影響を与えるという言い方をもう少し強い文章にしようと、言葉にしようということです。それは、今ちょっと考えています。文章は後で配ります。

(記者)

知事の有志で特定の政党支持を表明しようという動きについてはどうですか。

(麻生全国知事会会長)

それは、各県知事の自由です。

(記者)

昨日、民主党の代表が鳩山さんになりましたが、鳩山さんは就任前から地域主権とか分権を重要視するといいうようなことを、演説とかでかなり言われていますが、小沢さんから鳩山さんになって知事会として民主党の分権政策というのは、どういうふうに考えていますか。

(麻生全国知事会会長)

これはまさに、今、古川知事がさかんに玄葉さんが（民主党の）責任者ですから、玄葉さんといろんな格好で議論をし、我々の考え方はこうだということを説明し、民主党の考え方の説明を受けながら、やっている最中です。

具体的に地域主権という言葉が使われていますが、どういう政策で実現するんですかということについては、考え方は地域主権でいい。思い切って、国の補助金とか止めて全部地方に移すんだと。どういうやり方で移すのかということが大事ですから。具体的な政策論がなくてなくてはいけません。まさにその点の調整というのはあれですから、意見交換を盛んにやっている最中です。

(記者)

インフルエンザについて、橋下知事が通常のインフルエンザ対応をというふうにおっしゃいました。山田知事が、関西が麻痺してしまうという危惧もおっしゃいました。

この対策の切り替えについて、会長、山田知事にお聞きします。

(麻生全国知事会会長)

今日、舛添厚生労働大臣が病気、病状といいましょうか。それは、普通のインフルエンザと変わらないんだということでした。これは、非常に重要なことでこれがもし確認されるのであれば、今のマニュアルというのは猛毒性というか、猛毒性を前提に作られている。従って、ものすごい勢いで隔離したりしなきゃいけないわけですが、その考え方を変えなくてはいけません。その点を橋下知事が言っているわけで、舛添厚生労働大臣も極めて柔軟にあるいは現実的な恰好で対処しますということは示唆していると考えていいと思います。

(山田委員長)

私自身は、関西の実情からすれば、部分的な休校という措置は中途半端な感じがする。関西の場合は、たくさんの方が都道府県を越えて動いていますから、そうした点を心配していました。

今日は舛添大臣が、水際作戦も時間稼ぎであり、今回の大阪府・兵庫県の休校措置も時間稼ぎであって、その間に政策の転換を今進めているという話を聞きましたので、思い切った政策の転換をしていかなければ、本当に今のままでいきますと中途半端な繰り返しになってしまって、関西が麻痺してしまうと思いますので、そうした話を聞いたのはよかったなと思います。

ぜひとも早めに判断をしてもらって、その点を国においても統一した見解を持ってやっていかないと、もぐらたたきのような中で、ずっと学校を縛ってしまっていたら子供達も勉強出来なくなってしまうので、その点については、今日は答えが聞けてよかったなと思います。

(記者)

直轄負担金の今後の流れを確認したいのですが、今日アピール文が出て、負担は支払えないというニュアンスが入ってくるわけですね。それで5月中に平成20年度分、本年度分の明細がでてきて、それを見て改めてやはり不透明ですねと言って、8月の支払い分も拒否するという流れでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

そういうことになるでしょう。今まで出してもらっているのは、皆共通して言うのはこれではとても分かりましたといえるだけの説明資料になっていない。全部というわけではないが、今日、東京都が言ったように相当な部分がまだ不明であるということですから、もう少しちゃんとした説明なりになっていなければ、我々は払いようがないという現実の問題だと思います。

(記者)

それは、7月の全国知事会議で支払えないという形をだしていきますか。

(麻生全国知事会会長)

そこは、どういう表現になるのか分かりません。今日、二井知事が言っていましたように各県でやっている。その報告を求めますと。それで共通事項としては、知事会全体の問題で提起しますということになりますから。

ただ、各県でも相当やらなければ、事業の性格に応じて中身が違ってきますから。

結局、最終的には責任をもって、説明責任を逆に支払った時にもつのは、我々地方側になるわけです。

(記者)

留保金30億円の件で、プロジェクトチームを作るとおっしゃいましたが、いつ頃まで

に初会合を開きますか。

(麻生全国知事会会長)

これは、初会合がいつになるかは谷本知事に聞いてみないと分からない。

(記者)

7月の全国知事会議までにはあるということでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

そうです。7月の全国知事会議までには、方向を出してくださいとお願いしてあります。

(記者)

今の30億円についてですが、インフルエンザ対策の知事の要望が一部でていまして、それについて地震の時に出すような緊急の対策に応じて必要なのではないかとありましたが、会長個人としては、どのように考えていますか。

(麻生全国知事会会長)

会長個人としての意見は、今申し上げません。せつかく谷本知事に検討していただきますから。

(記者)

直轄負担金のアピールについての文言の修文がこれからだということですが、簡単に言うと全国知事会の求めている情報がなければ支払い拒否問答に入るという意味でいいですか。

(麻生全国知事会会長)

申し上げているように、支払えないということです。

(記者)

支払拒否ですか。

(麻生全国知事会会長)

拒否という言葉を使うかどうかというのは、いろんな考え方があっていいでしょう。そもそも拒否とかいうことで出発しているのではなくて、我々は、我々として内部的な説明をしなければいけませんから、それができるだけ情報がきちっとない限りは、払えないということです。

言葉の性格上、制度がこれだけ確立していますから、頭から払えないということはなかなか言いにくいと思います。

しかし、現実には説明がない限りは払えないということです。それが実態だと思います。

(山田委員長)

これは、大きな決意です。それは、国土交通省とか大臣と違って我々は違法、不当な支出については監査請求されて、我々に対して場合によっては訴訟を起こされる可能性のあるところまで制度としてあるわけですから、それに対して、こうした説明不足では払えないと宣言をするということは、それだけこっちは説明責任を住民に対して負うところまで踏み込んだということです。そうした面では、評価はいろいろありましたが文言は別として、今回私は一歩段階を進めた内容になっているというふうに思っています。

(記者)

文言はこれからとして、払えないと書くんですね。払わないということではなくて、払えないだろうということですか。

(麻生全国知事会会長)

どういう表現をするかということはありませんが。実は、我々も追い込まれています。

(記者)

払えない、払う、払えないの判断は今後出てくると思いますが、一つ補助金に比べて、直轄事業負担金の方が説明がおおざっぱという意見が知事の間ででていますが、これであつたら支払ってもいいという判断として、補助金の動きというのは一つの考え方でしょうか。

(麻生全国知事会会長)

なかなか難しいところです。今日もまさに東京都がいみじくも出していました。これだけの項目が出てきました、これだけ費用が出てきました、しかし、この中でどうにもよく分からないというのがこういう分類ですということになった。

どうにも分からない部分は、払いません。しかし大体これで分かった部分は払いましょうと。分割方でいくのか、それとも全体型でいくのか、これはもう少し状況なり開示の自身を見なければいけません。

(山田委員長)

補助金の申請書の明細を見たことありますか。今回のものとは、全然違います。給与費だったら、何級の職員が何人まで皆書いてある。あれが細かすぎるのも事実だとい

う感じがします。どこまでやるかというのは程度の問題がありますが。今のままでは、あまりにも粗過ぎて明細でもなんでもありません。

－以上－